

世界経済・金融市場動向（日本）

先月の振り返り

01 日本株式市場

1月の日経平均株価は下落しました。海外の金融政策正常化を背景に金利が上昇中、グロース銘柄中心に売り圧力が強まりました。

米国FOMCでは利上げペースの加速が意識され、一時26,000円近くまで値を下げました。

02 日本債券市場

1月の日本長期金利は上昇（価格は下落）しました。日銀の金融政策変更の思惑や米国の金利上昇を受けて、金利が上昇しました。

米国FOMC後には、米国金利上昇を背景に、マイナス金利政策が導入された2016年1月以来の水準まで金利は上昇しました。

経済金融環境

01 日本経済環境

日本の物価動向は、消費者物価（コア）は携帯電話通信料の押し下げ効果（約1.5%）を加味すると2%程度で推移しています。

景気ウォッチャー調査における先行き判断DIは4カ月ぶりに50を下回りました。コスト上昇やオミクロン株拡大に対する懸念が影響しています。

今後の見通し

01 日本株式市場

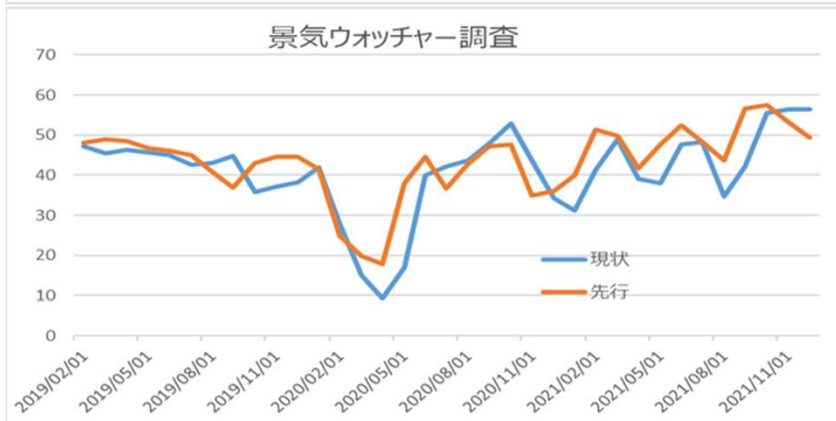
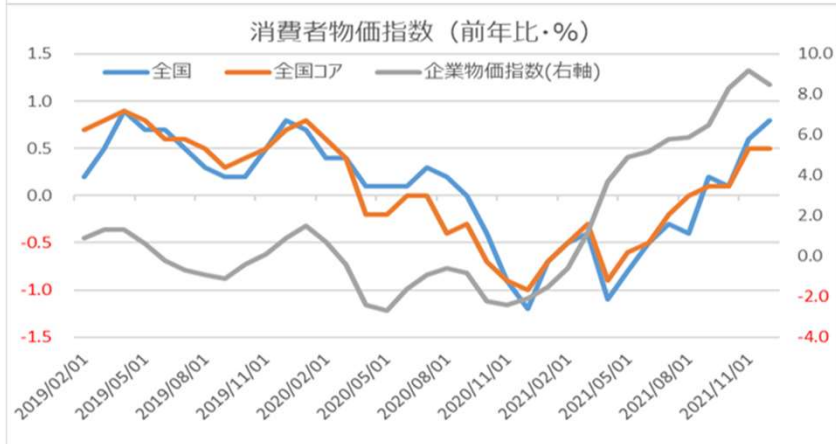
コロナ再拡大による景況感悪化懸念や各国中央銀行の金融政策正常化を受けて、上値の重い展開を予想します。また、内閣支持率など国内政治への影響も注意が必要と考えます。

日銀の金融政策変更観測が強まり、円高が進行した場合は、一時的に売り圧力が強まる可能性があると考えます。

02 日本債券市場

日銀の金融スタンス変更の思惑から変動性の高い相場を見込みます。日銀の対応方針を確認するため、YCCのレンジ上限である0.25%付近に迫る局面もあり得ると考えます。

一方で、景況感悪化やウクライナ情勢次第で金利が低下する可能性も想定されます。



(注) データ期間：2019/2/1～2022/1/31
(出所) Bloombergのデータを基にFDA作成

世界経済・金融市場動向（米国）

先月の振り返り

01 米国株式市場

1月のS&P500指数は下落しました。原油高や労働需給逼迫からFRBによる金融引き締めに一層警戒が強まる中、コロナ再拡大による企業生産活動の停滞、消費者マインド悪化、財政政策期待の後退などを背景に軟調に推移しました。

利上げ動向や決算発表を控えた警戒感から、ハイテクなどグロース銘柄は特に下落しました。

02 米国債券市場

1月の米国長期金利は上昇（価格は下落）しました。コロナ再拡大による供給障害および労働力不足の継続、資源高の進行からインフレ高進が意識される展開となりました。

FOMCではパウエル議長が利上げペース加速を否定しなかったことから、政策動向に不確実性が高まる結果となり売りが加速しました。

経済金融環境

01 米国経済環境

コロナ再拡大を背景に供給障害や労働力不足等が継続しており、企業センチメントは悪化傾向にあります。

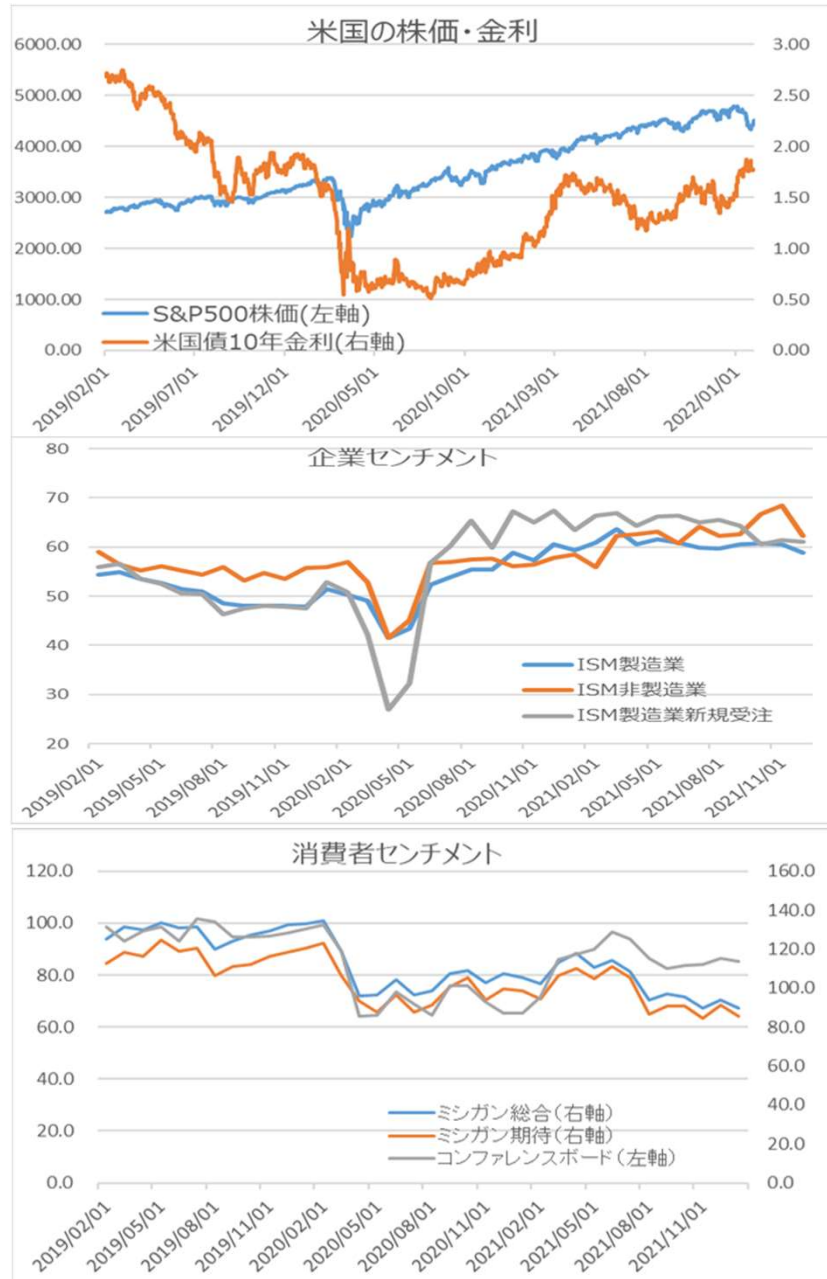
米国の消費者センチメントは、物価上昇によって実質所得が減少していることや、貯蓄の減少に加え、オミクロン株が足元で拡大していることを受けて低下傾向にあります。

今後の見通し

01 米国株式市場

足元はFRBが物価上昇に対応するため金融政策正常化に向かうことからPER低下圧力がみられています。今後もセンチメント悪化、地政学リスクを背景に上値が重い展開を予想します。

企業決算で良好な内容が確認できれば、安心感からグロース銘柄に再び資金が戻るなど、株価が反発する局面もあると考えます。



(注) データ期間：2019/2/1～2022/1/31
(出所) Bloombergのデータを基にFDA作成

02 米国債券市場

FRBのタカ派転換について既に相当程度市場では織り込まれていることから、短期的にはレンジで推移することを見込みますが、不安定な状況が継続すると考えます。

景況感悪化や地政学的リスクが高まった場合、リスクオフで債券が買われる可能性がある一方、インフレ懸念が強まった場合や、欧州等の海外金利が上昇した場合などは、金利上昇のリスクがあると考えます。